図画工作科学習指導案

[redacted]

本授業は，以下の検証を行うものである。
子供が自分の学びを見つめる「効果的な立ち止まりや振り返り」の時間を設定することは，造形的な見方・考え方を働かせながら，自分らしい価値を見いだし，新たな思いや願いをもつ手立てとして有効であったか。

１　題　　材　　色・形　いいかんじ！～絵のぐで大じっけん～

２　目　　標

水彩絵の具で思いのままにかきながら自分の色や形を見付け，いろいろ試しながら表し方を工夫して表すことができるようにする。

３　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○　絵の具を混ぜたり重ねたり，いろいろ試しながら，表し方を工夫している。	○　思いのままに表しながら，自分の色や形を見付けている。 ○　自分たちの活動や作品からできた色や形のよさや面白さなどを感じ取っている。	○　自分の色や形を味わいながら，水彩絵の具で表すことを楽しもうとしている。

４　題材について

(1)　題材について

本題材は，小学校学習指導要領の第３学年及び第４学年の目標「A表現」（１）「イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したこと，見たことから，表したいことを見付けることや，表したいことや用途などを考え，形や色，材料などを生かしながらどのように表すかについて考えること。」〔共通事項〕（１）「イ　形や色などの造形的な特徴を基に，自分のイメージをもつこと。」に重点を置いている。

本題材は，水彩絵の具の基本的な使い方を知るとともに，筆の使い方や水の量により多様な表現が可能となることや，混色によりたくさんの色をつくれることを実感できる題材である。そして，本題材の学習は今後，「うれしかったあの気もち」（絵に表す）や「大すきなものがたり」（絵に表す）につながるものである。

(2)　子供について

本学級の子供は，前学年までの学習において，水彩絵の具を使って絵をかいた経験があるものの，パレットの使い方や持ち方，筆洗の使い方など，水彩絵の具の基本的な使い方が身に付いていない子供も多い。また，無心にかくことを楽しんでいた低学年から，目的や表現する内容についての意識を明確にもち，ふさわしい表現を求める中学年へと成長し始め，「自分の表現に自信がない。」「友達からどう見られるか不安だ。」という思いから，なかなか製作に入れない子供もいる。

そこで本単元では，水彩絵の具の使い方を再度振り返り，用具を正しく使えるようになるとともに，水彩絵の具を使った様々な表現に親しみ，互いの表現を認め合うことで，自分なりの表現に自信をもてるようにし，多様な表現の面白さにも気付くことができるようにする。

(3)　指導について

本題材の目標を達成するため，思いをもつ過程では，これまでの学習を想起させながら水彩絵の具の基本的な使い方を復習する。また，題材のゴールとなる作品例を提示することで，どのような工夫をすれば多様な表現ができるのかという課題づくりを行う。思いをふくらませる過程では，グループで課題を解決していく形を取ることで，互いにアドバイスをし合いながら技法についての理解を深めることができるようにする。また，それぞれの作品のよさや工夫を見付ける時間を設定することで，筆の使い方や水の量により一つとして同じ色や形がないことに気付くことができるようにする。思いを表現する過程では，自分の色や形でかくことを楽しめるように，前時で見付けた水彩絵の具の特徴をいろいろ試しながら，思いに合う表し方を工夫して製作を行う。自他のよさに気付く，新たな思いをもつ過程では，相互鑑賞の時間を設け，互いのよさや工夫を交流することで，今後の製作につなげようという意欲を高めることができるようにする。

５　指導計画（総時数５時間）　　ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
思いをもつ	1　これまでの水彩絵の具を使った学習を振り返る。 2　題材のめあてをとらえる。 自分が「いいかんじ」と思う色や形，あらわし方を見つけて，絵のぐはかせになろう。 3　水彩絵の具の基本的な使い方を知り，試しの作品をかく。 【態：自分の色や形を味わいながら，水彩絵の具で表すことを楽しもうとしている。】	2		ヌ	
思いをふくらます	4　水彩絵の具の使い方を振り返り，作品例から課題を見付ける。 5　課題を基に，グループで意見を交換しながら水彩絵の具の特徴を調べる。 6　互いの表現を見せ合い，それぞれのよさや工夫に気付く。 【知：絵の具を混ぜたり重ねたり，いろいろ試しながら，表し方を工夫している。】 【思：自分たちの活動や作品からできた色や形のよさや面白さをなどを感じ取っている。】	1 (本時)			ホ
思いを表現する	7　前時で見付けた水彩絵の具の特徴をいろいろ試しながら，自分の色や形でかくことを楽しむ。 【知：絵の具を混ぜたり重ねたり，いろいろ試しながら，表し方を工夫している。】 【思：思いのままに表しながら，自分の色や形を見付けている。】 【態：自分の色や形を味わいながら，水彩絵の具で表すことを楽しもうとしている。】	1.5	ス		
自他のよさに気付く／新たな思いをもつ	8　作品カードを書き，互いの工夫やよさを発表し合う。 9　題材のまとめをする。 ・　絵の具のじゅんびやおきかたはとても大切なんだ。 ・　絵の具と水,ふでの使い方をくふうすると,たくさんの色や形ができておもしろいな。 ・　これからほかの絵をかくときにもつかってみたいな。 【思：自分たちの活動や作品からできた色や形のよさや面白さなどを感じ取っている。】	0.5	コ タ		

６　本　　時（３／５）

(1)　目　標

水彩絵の具の表現の多様性に気付き,水彩絵の具の使い方を工夫することができるようにする。

(2)　評価規準

水彩絵の具を混ぜたり重ねたり，いろいろ試しながら，表し方を工夫している。【知識・技能】

自分の色や形を味わいながら，水彩絵の具で表すことを楽しもうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(3)　指導に当たって

思いをもつ過程では，前時で学習した水彩絵の具の基本的な使い方を振り返るとともに，試しの製作の中で偶発的に生まれた表現に着目し，これらの表現はどのようにしたら表せるのか課題意識をもって本時の活動に取り組めるようにする。

思いをふくらます過程では，課題解決のためには，何が関係しているのか（筆の使い方や水の量）を予想し，見通しをもちながら製作を行うことができるようにする。

思いを表現する過程では，個人の製作を行いながらも，グループで自由に作品を見合ったりアドバイスし合えるようすることで，筆の使い方や水の量により，一つとして同じ色や形がないことに気付くことができるようにする。

自他のよさに気付く，新たな思いをもつ過程では，互いの作品を鑑賞する時間を設け，自分や友達のよさや工夫を発表し，認め合う活動を行うことで表現への自信をもち，次時への意欲を高めることができるようにする。

(4)　本時の展開　　〔　〕子供の意識　○　指導の手立て　※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
思いをもつ	5	1　前時までの学習を振り返る。 ・　絵の具の使い方を習ったよ。 ・　絵の具を使っていろいろかいて楽しかったな。 2　前時の作品のよさや工夫を見付け，どうしたらそのような表現ができるのか，課題意識をもつ。 3　本時のめあてを立てる。 絵の具の大じっけんで，自分だけの色や形の「いい感じ」を見つけよう。	○　前時の学習を想起させ，題材名ボードと関連付けることで本時の意欲を高めることができるようにする。 ○　**子供たちが製作した作品を基に，課題を見付けたり色や形のよさを見付けたりすることで，自分たちの表現の中にもよさやおもしろさがあることに気付かせ，主体的に課題を解決しようという意識を高める。**
思いをふくらます／思いを表現する	３０	4　絵の具の使い方を復習する。 ・　使い易いように筆洗やパレットの場所を決めることが大切だね。 ・　絵の具は全部出すんだったね。 5　課題を基に，個人やグループで，水彩絵の具の表現を工夫する。 (1)　筆でたくさんの種類の線をかく。 ・　筆先を尖らせると細い線になるよ。 ・　力の入れ具合で太さが変わるね。 (2)　たくさんの色を作る。(混色) ・　緑に他の色を混ぜるとたくさんの緑ができるね。 ・　少しずつ混ぜた方がいいね。 (3)　ドライブラッシュ・にじみ ・　筆につける水の量で，色の感じが変わってくるね。 ・　水が少ないと色が濃いね。 ・　紙に水を塗ってから色を落とすと薄くにじんだよ。 (4)　洗い出し ・　色を着けた後にティッシュで叩くと色が薄くなるね。 ・　なんだか模様みたいに見えるよ。	○　前時の活動の反省を基に，水彩絵の具の使い方の留意点を再度指導することで，用具の使い方の定着を図る。 **(問) グループ内での交流を取り入れることで，多様な友達の考えを理解し，自分の作品に反映させていくことができるようにする。** ○　製作の中のつぶやきや会話を取り上げることで，自然と筆の使い方や水の量に注目させ，一つとして同じ色や形がないことにも気付くことができるようにする。 ○　行き詰まっているグループにはヒントカードを与えたり，個別に声掛けを行ったりする。 ※　絵の具を混ぜたり重ねたり，いろいろ試しながら，表し方を工夫している。 (発言・作品)【知識・技能】 ※　自分の色や形を味わいながら，水彩絵の具で表すことを楽しもうとしている。 (発言・子供の姿)【主体的に学習に取り組む態度】
自他のよさに気付く／新たな思いをもつ	１０	6　こだわり見っけタイムを行い，自分や友達の工夫を見付け，発表し合う。 ・　同じやり方なのに色の感じが違っておもしろいな。 ・　○○さんの色がとてもきれいで真似したいです。 7　本時の学習の振り返りをする。 水彩絵の具は，筆の使い方や水の量を工夫すると，いろいろな「いい感じ」が出ておもしろいよ。 8　次時の学習を確認する。	○　互いの表現を鑑賞し合う時間を設定し，自分や友達のよさや工夫を認め合うことで，表現への自信をもち，次の学びへの意欲が高まるようにする。 ○　子供の感想を基にまとめを行うことで，子供自身が本時の学びを実感できるようにする。 ○　できあがった作品を，「見える図」の形に組み合わせ，今後の製作にも活用できるようにする。

図画工作科学習指導略案

[redacted]

本授業は，以下の検証を行うものである。
「つくり・つくりかえ・つくる」という学習過程を意識した「効果的な立ち止まりや振り返り」の時間を設けることは，形や色に着目しながら，自分の表現方法や作品と向き合い，学びを実感する手立てとして有効であったか。

1　題　　材　　ぴょこぴょこストロー工場（工作に表す）

2　指導計画（総時数３時間）　　ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
思いをもつ	1　題材名ボードや作品例を見て題材への意欲を高め，題材のめあてを捉える。 目指せ発明王！ストローで動く新しいおもちゃを発明しよう！ 2　ストローや紙コップなどを組み合わせて動く仕組みをつくる。 【態：題材に関心をもち，ストローや紙コップなどを組み合わせて動く仕組みを進んでつくろうとしている。】 【知：ストローや紙コップなどで動く仕組みを理解し，動く仕組みのおもちゃをつくっている。】	1			ホ
思いをふくらます／思いを表現する	3　ストローや紙コップなどで動く仕組みを動かしながら，つくりたいものを考える。 4　思い付いたもののイメージに合うように，形や色などを工夫して飾りをつくる。 5　中間鑑賞会を行い，自他の作品づくりのよさや工夫について交流し，更に自分の作品づくりに生かしていく。 【思：ストローで動く仕組みを見ながら想像したことの形や色を捉え，つくりたいものをイメージし，つくり方を工夫している。】	1 (本時)		ノ	
思いをさぐります／新たな思いをもつ	6　こだわり見っけタイムをしながら，自分や友達がつくった動く仕組みのおもちゃの面白さについて考え，交流する。 【態：動く仕組みの面白さを基に，形や色などの造形的な視点をもち，表し方の面白さについて気付いている。】	1	ス		

3　本　　時（２／３）

(1)　目　標

ストローで動く仕組みを見ながらつくりたいものをイメージし，つくり方を工夫することができる。

(2)　評価規準

ストローで動く仕組みを見ながら想像したことの形や色を捉え，つくりたいものをイメージし，つくり方を工夫している。　【思考・判断・表現】

(3)　指導に当たって

思いをもつ過程では，動く仕組みとその動き方を確認するだけでなく，前時で見られた応用作品を取り上げることで，発想の幅を広げたり更に自分の作品をよりよいものへと発展させたりしたいという思いを高めたりすることができるようにする。

思いをふくらませる／思いを表現する過程では，動く仕組みを基に見立てる活動を全体の場で行うことで，個人で製作する際に見通しをもって活動することができるようにする。また，思い付いたものになるように飾りなどを工夫する活動において，材料を十分に用意したり，実態に応じて接着の仕方や飾り方の工夫を支援したりすることで，「思いや願い」を実現し，「成功体験」を積み重ねることができるようにする。

製作の過程に中間鑑賞会（「効果的な立ち止まりや振り返り」の時間）を設けることで，自他の製作の工夫を再認識したり，友達からよりよいアイデアを得たりし，自分の作品づくりに生かすことができるようにする。その際，全体で交流の仕方のモデルを示すことで，視点（「造形的な見方・考え方」）をもって交流活動を行うことができるようにする。

自他のよさに気付く／新たな思いをもつ過程では，作品の面白さや工夫したところを交流することで，本時で学んだことを共有することができるようにする。また，本時の活動において新たに生まれた「思いや願い」を出し合うことで，今後の活動に向けての意欲を高めることができるようにする。

(4)　本時の展開　　〔　　〕子供の意識　○　指導の手立て　※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
思いをもつ	5	1　前時までの学習を振り返り，動く仕組みのつくり方や動きの面白さについて全体で共有する。 ・　外のストローを押さえて，中のストローを引っ張るとストローがぴょこぴょこ動くよ。 ・　ストローを合体させるときは，外のストローをテープでしっかり留めることが大事だったね。 2　学習のめあてを立てる。 ストローのうごきにぴったりのかざりをつけよう。	○　前時で作成した動く仕組みを実際に動かしたり，仕組みを応用して作成したものを紹介したりすることで，自分の作品を本時で更に発展させたいという意欲を高めることができるようにする。 ○　前時に出た子供の「思いや願い」を想起することで，本時のめあてにつなげ，共有することができるようにする。
思いをふくらませる／思いを表現する	３５	3　仕組みを動かしながらつくりたいものを考える。 ・　立てると腕を振っているみたいに見えるけど，横にすると泳いでいるようにも見えるね。 ・　足をいっぱいつけると虫みたいに見えるかもしれないな。 4　思い付いたものになるように，飾りなどを工夫しながらつくる。 ・　色紙は両面テープを使って貼ると上手に付けることができるね。 ・　羽根の形の色紙を付けると，鳥みたいになったよ。 5　中間鑑賞会を行い，互いの作品の工夫しているところを交流する。 ・　○○君は，ストローをたくさん合体させて虫みたいなものをつくっていたよ。 ・　向きを変えたら，動物が走っているみたいにも見えるんだね。 6　中間鑑賞会で得たアイデアを基に，作品づくりを続ける。 ・　○○君みたいに，ストローの数を増やしてみよう。 ・　飾りは前だけでなくて，後ろにも付けた方がよさそうだ。	○　動く仕組みをいくつか取り上げ，見立てる活動を全体で行うことで，全員が見通しをもって活動することができるようにする。 ○　材料を十分用意したり，実態に応じて接着や装飾の支援や助言をしたりすることで，「思いや願い」を実現し，「成功体験」を味わいながら活動することができるようにする。 **(情)　交流を行う前に視点（「造形的な見方・考え方」）を共有することで，視点を明確にして交流活動を行うことができるようにする。** ○　交流して気付いた自他のよさを参考にして製作している過程を価値付けることで，協働して学ぶ学び方を強固にすることができるようにする。 ※　ストローで動く仕組みを見ながら想像したことの形や色を捉え，つくりたいものをイメージし，つくり方を工夫している。 （活動の様子，作品）【思考・判断・表現】
自他のよさに気付く／新たな思いをもつ	5	7　本時の学習を振り返る。 うごかしながら，かざりのかたちやいろをかんがえてつくると，おもしろいおもちゃになったよ。 8　本時の学習で学んだ表現の工夫や友達のよさを今後の自分の作品で生かしていきたいという思いをもつ。	○　作品の面白さだけでなく，工夫したことも称賛することで，本時での学びを実感することができるようにする。 ○　本時での学びを振り返ることで，次回の学習に向けて意欲付けや学び合いのよさを実感することができるようにする。